

研修員's VOICE

Vol. 30

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

出典：外務省HP



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

4 質の高い教育を
みんなに



16 平和と公正を
すべての人に



自国の平和を祈念し「平和」の文字を書きました

氏 名: Mr. CARO DAZA Juan Camilo (ファンさん)

国 名: コロンビア共和国

コース名: 平和教育における現職教員研修制度強化

研修期間: 2019年 11月 17日 ~ 2019年 12月 7日

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。

コロンビアってどんな国？

南アメリカ北西部に位置するコロンビアは、人口約5千万人(2018年)、面積約114万km²(日本の3倍)、首都ボゴタはアンデス山脈東部、標高2,600mの高地に位置します。コーヒーやサッカーが世界的に有名です。

半世紀に渡る内戦を経て、2016年政府と反政府ゲリラの和平合意が締結されました。それに伴い、教育現場では平和教育が必須科目となり、平和な国づくりに向けて歩み始めています。その反面、コロンビアの学校では、いじめや暴力、男女間、人種間や障害者への差別、若年層の麻薬など多くの問題があり、そのような子の多くは、家庭でも虐待や家庭内暴力など複雑な問題を抱えています。



「差別を無くそう」という壁画のあるコロンビアの教育機関

平和教育への取り組み

私が所属する教育省では、平和教育のガイドラインを発行、各県の教育庁レベルの研修を行っていますが、教育システムは地方分権化されており、地方の平和教育をフォローするには至っていません。多くの教員は平和教育の経験がなく、都市では数人のチームで対応する学校もありますが、地方では教員一人で全学年に対応する、平和教育に対する地域住民の理解が得られないなど、都市部と地方での格差もあります。

日本は、世界の中でも平和教育を重視している国であり、かつて沖縄戦があった沖縄での研修ということで、自国の教育の質の向上に繋がると期待して、二つ返事で研修参加を決意しました。



沖縄の小学生から平和の象徴「折り鶴」を頂きました

コロンビアの平和な未来に向けて

糸満市の平和の礎には、敵、味方関係なく、犠牲者の名が刻まれているのに感銘を受け、読谷村の集団自決が行われたガマの見学では、心が震える思いでした。沖縄戦の記憶をありのままに伝承し、平和構築に力を注いでいると感じました。その他、音楽やスポーツ、アートを平和教育に取り入れることを学びましたが、それはとても良い戦略で、社会には多様な人がいることを認識し、理解することで、人間関係の構築が促されます。

日本の平和憲法や人権尊重の理念は大変素晴らしく、それは学校や社会で人々が共存共生することに繋がります。そのためにはやはり教育が何よりも重要であり、我々は国の責任として、子どもたちの将来の道をつくっていきたいと思います。



「スポーツを通して学ぶ平和」のワークショップで発表するファンさん(右)